

第193回 全経簿記検定試験 上級 一工業簿記一

模範解答

模範解答・予想配点・解説等は、学校法人高橋学園が独自の見解によって作成しており、検定試験実施機関における本試験の解答並びに出題の意図を保証するものではありません。なお、予告なしにその内容を変更する場合がございます。ご理解いただいたうえで、ご利用ください。

問題 1 [丸数字は予想配点、合計 83 点]

問 1

補助部門費配賦後の切削部門費予算 [① 5,381,960] 円
 内訳：変動費 [③ 2,148,160] 円 固定費 [③ 3,233,800] 円
 補助部門費配賦後の組立部門費予算 [① 4,783,040] 円
 内訳：変動費 [③ 2,411,840] 円 固定費 [③ 2,371,200] 円

問 2

切削部門の予定配賦率 [③ 1,345.49] 円/時間
 組立部門の予定配賦率 [③ 1,913.216] 円/時間

問 3

補助部門費配賦後の切削部門費予算 [① 5,394,000] 円
 内訳：変動費 [③ 2,152,000] 円 固定費 [③ 3,242,000] 円
 補助部門費配賦後の組立部門費予算 [① 4,771,000] 円
 内訳：変動費 [③ 2,408,000] 円 固定費 [③ 2,363,000] 円

問 4

切削部門の予定配賦率 [③ 1,348.5] 円/時間
 組立部門の予定配賦率 [③ 1,908.4] 円/時間

問 5

動力部門費

諸 口	2,677,200	切削部門費	[② 1,311,300]
()	[]	組立部門費	[② 1,066,320]
原価差異	[]	(修繕部門費)	[③ 262,260]
		原価差異	[① 37,320]

修繕部門費

諸 口	1,284,700	切削部門費	[② 913,308]
(動力部門費)	[① 262,260]	組立部門費	[② 608,872]
原価差異	[]	()	[]
		原価差異	[① 24,780]

(注) 記入する必要のない欄はそのままにしておくこと。

問 6

特徴： 補助部門費の勘定で把握される原価差異は、補助部門の原価管理活動の良否の影響を示す、補助部門にとって管理可能な予算差異のみが把握されるという特徴がある。㊦
前提： 補助部門の計画サービス提供量が、製造部門の計画サービス消費量に依存して確定し、計画サービス提供量は、補助部門にとって管理不能であるという前提がある。㊦

問 7

		仕掛品			
月初仕掛品	3,255,305	製 品	[㊦ 18,133,569]		
材 料	[㊡ 4,450,000]	仕 損 費	[㊡ 4,626,655]		
賃 金 給 料	[㊡ 3,872,000]	(仕 損 品)	[㊡ 630,000]		
切削部門費	[㊡ 5,286,120]	月末仕掛品	[㊡ 2,718,184]		
組立部門費	[㊡ 4,618,328]				
(仕 損 費)	[㊡ 4,626,655]				

(注) 記入する必要のない欄はそのままにしておくこと。

問題 2 [丸数字は予想配点、合計 17 点]

問 1

完成品総合原価	原材料費	[㊦ 18,000,000] 円
完成品総合原価	第 1 工程加工費	[㊦ 20,640,000] 円
完成品総合原価	第 2 工程加工費	[㊦ 13,200,000] 円

問 2

問 1 では、第 1 工程の工程完了品原価を（ 前工程費 ）として第 2 工程に振り替えるのではなく、二つの工程を（ 単 一 ）の工程とみなして、最終完成品と各工程の月末仕掛品の原価を計算している。また、原価配分方法として、平均法を採用している。そのため、この方法では、第 1 工程の月末仕掛品原価の中に、第 2 工程の（ 月初仕掛品 ）原価の一部が含まれる。このことは、加工作業の流れに沿って正確な原価を計算する考え方にもとづくと、望ましくないといえる。

各括弧につき㊦点